■屋須弘平 天文学者をめざしてメキシコに渡るも政変、日本人として初めてグアテマラに移住、写真家として活躍した。

やすこうへい

孝明天皇・1846= 陸奥国の仙台藩領藤沢(現在の岩手県最南端)で、蘭方医屋須尚安の子に生まれる。

ペリー来航・1853= 7歳：
幼時より、父から、オランダ語の教育を受けて育ち、
安政大地震・1855= 9歳：

桜田門外変・1860=14歳：

禁門の変・1864=18歳：叔父を頼って、江戸に上り、蘭医学を修業した後、
横浜に赴き、フランス人医師エームリエの私塾に入って、幅広く西洋医学を学ぶ。フランス語ばかりかスペイン語もたちまち習得するなど、外国語に抜群の才能を示して師を驚かさず一方、天文学にも強い関心を抱くようになるが、

明治維新・1868=22歳：戊辰戦争となったため、帰郷する途次、二本松あたりで負傷した仙台藩士らに遭遇し、軍医となって従軍、敗色濃くなるなか、かつての支倉常長以来の縁もあってか、仙台藩にメキシコからの応援軍を求める声がかかるも、さすがに立消えとなる。

戊辰戦争終・1869=23歳：戦争が終わると、帰郷して、診療所を開設、評判になって患者が詰めかけるも、向学心はますます盛んになり、フランスに帰国した師エームリエのもとに留学すべく、
学問のすすめ1872=26歳：横浜のフランス語伝習所に入る。

明治6年政変 1873=27歳：
佐賀の乱・1874=28歳：*金星の105年ぶりの太陽前の通過で、各国の観測隊が適地の日本に訪れ、来日が遅れたため、横浜で観測することになったメキシコ隊から、通訳の紹介を求められた日本政府に抜擢されて従事するうち、天文学への興味が増え、隊長で土木省次官のコバルピアスにフランス留学の希望を申し出て、快諾を得、

初の民間工場1875=29歳：西回り世界一周のフランス船ボルガ号に乗船し渡仏、パリに滞在し、得意のフランス語で知識人たちとも交流、医学を学ぶはずが、すでに興味は天文学に移っていて、半年後、同じボルガ号でメキシコに至る。コバルピアスの家に寄寓し、初の日本人メキシコ留学生として、国立天文高等専門学校に入学するが、

三つの内乱・1876=30歳：クーデタが起こって政権交代、
大久保暗殺・1878=32歳：*グアテマラ駐在公使に左遷されたコバルピアスに従って、首都グアテマラシティに移住。生活の厳しくなった公使宅に甘えているわけに行かず、アメリカ人の経営する写真館の助手に採用してもらおうと、持ち前の向学心でたちまち写真技術を習得、まもなく独立し、写真館{フォトグラフィア・ハボネサ}を開設、最新の機材とスタジオまで揃え、借金の返済のために長期在住を覚悟、確かな腕前と誠実な人柄で評判となり、大統領や大司教までもが肖像写真を注文、写真家の第一人者になるに至る。
_親交するようになった地元の人たちのほとんどがカトリック教徒だったことから、

明治14年政変1881=35歳：

新体詩抄・1882=36歳：

岩倉具視没・1883=37歳：

帝国憲法発布1889=43歳：自らが受洗してカトリック教徒“ホアン・ホセ・ヘスース・ヤス”になる。
_おそらく母の近況を伝える手紙が届いたことから、自らが真の祖国とするグアテマラを離れて、帰国。母の面倒をみてくれていた妹にお礼の大金を手渡した後、築地に写真館を開き、母と姪を呼び寄せた矢先、ドイツ人実業家が持ち込んだ南米ペルーの鉱山共同開発の話にのった農商務省特許局長高橋是清から目をつけられ、日本の海外進出という点でも共感、高橋とともに横浜港を出航、

帝国議会始・1890=44歳：ペルーに到着したもの、もともとホラ話で、高橋はすぐに帰国、仲介していた日本人も逃げてしまい、自らが恥ずかしくて帰国できないと、遅れてやってきた日本人坑夫たちを日本に返す船で、

大津事件・1891=45歳：*グアテマラの港サンホセに着いたところで下船すると、暖かく迎えられ、再び写真館を開業しただけでなく、現地女性と結ばれ、晴れやかな結婚式を挙げる。

郡司千島探検1893=47歳：この年、日本人移民130人余が入国したが、あまりの契約条件の悪さに、隣国メキシコの日本公使館が介入、全員の契約を解除させている。

日清戦争始・1894=48歳：この年、渋沢栄一の依頼もあって、移民先が無いか調査するために訪れた日本郵船の伊東米治郎が、首都グアテマラ・シティで、竹細工の店を出し大繁盛している日本人がいたことに驚嘆している。

日清戦争終・1895=49歳：妻とともに、古都アンティグアに移住、以後、写真館を運営しながら、歴史的建造物などを精力的に撮影、芸術作品にまで仕上げて行く。

ビアノ国産化・1900=54歳：
日露戦争終・1905=59歳：
子供ができず、妻の親戚の2人の子を養子にし、_日本との間でも、妹の長男松谷英吉を中心に手紙のやり取りをしていたが、
伊藤博文暗殺1909=63歳：おそらく、脊椎カリエスに罹っていて、*次第に衰弱し、

明治天皇没・1912=66歳：

民本主義・1916=70歳：病床に臥せていて厳しさは増すばかり、すでに歯は無いので、来ることが可能なら、醤油で料理した柔らかいもの(豆腐、トロロ、野菜、野草、果物など)が欲しいという内容の手紙を、英吉に出したのを最後に、
ロシア革命・1917=71歳：_没した。
2005年に、横浜で「屋須弘平展」が開催され、改めて、知られることになった。